

宜 基 渉 第 24 号
平成 27 年 9 月 7 日

外務省沖縄事務所沖縄担当大使
水上 正史 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

普天間飛行場における米軍機による騒音等について（抗議・要請）

本市はこれまで、市民生活への影響が特に大きい騒音については、機会があるごとに抗議・要請を行っており、3日間で市民から24件の苦情が寄せられた先月8月14日にも、夜間飛行及び市街地上空における旋回飛行訓練について、貴職をはじめ、沖縄防衛局長及び第三海兵遠征軍司令官へ厳重に抗議・要請したところであります。

しかし、それにもかかわらず、旧盆の中日にあたる8月27日には上大謝名区において6時37分に103.7dBもの騒音が確認されるなど、早朝にもかかわらず90dB以上の騒音が複数回確認されており、苦情も6件寄せられております。

また、9月3日には夜間10時を超えての騒音が市内全域で確認され、市には悲鳴にも似た声が16件も寄せられております。

前回の抗議・要請後も米軍機飛行に伴う騒音が繰り返され、一ヶ月も経過しない現在までに、本市へ寄せられた苦情は前回の24件を含め、合計60件にのぼっており、市民生活に大きな影響をあたえ続けていることは、極めて由々しき事態であり、誠に遺憾であります。

このような中、今月9月3日には米国ノースカロライナ州において普天間飛行場にも配備されているCH-53E型ヘリコプターが着陸に失敗し、海兵隊員1名が死亡する事故が発生しました。事故を起こしたCH-53E型ヘリコプターは11年前に沖縄国際大学に墜落したヘリの後継機であり、8月12日にうるま市沖で発生した事故も含め、相次ぐ米軍機による事故は、そのたびに市民に大きな衝撃と不安を呼び起こさせるものであります。

つきましては、市民生活に重大な影響を及ぼす夜間飛行と、住宅地上空における旋回飛行訓練について厳重に抗議するとともに、市民の声を真摯に受けとめ、運用改善に向け最大限努力するよう、貴職から米軍に対し強く申し入れをしていただくようお願い申し上げます。

また、問題の抜本的解決のためにも普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還を実現していただくようお願い申し上げます。